分担研究報告書

研究題目　実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）の現場適用による検証―検証３－

研究分担者　宮﨑 美砂子（千葉大学大学院看護学研究科・教授）

研究要旨
本研究班で作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）」を研修実施機関 4 か所（県本庁、保健所設置市本庁、県型保健所、職能団体）に適用し、実務保健師を対象とした災害時対応研修を企画・実施・評価し、その効果及び実用性を検証した。受講者は合計 216 人で、内訳は県本庁企画研修 86 人、保健所設置市本庁企画研修 38 人、県型保健所企画研修 24 人、職能団体企画研修 68 人あった。効果の評価のため回収した質問紙は、受講直後は合計 208 人（受講者の 96.3%）、受講 2 か月後は合計 136 人（同 63.0%）であり、受講直後の満足度、実務保健師の災害時の役割遂行に対する自覚、知識、自己の問題点、自己の問題点を改善するための知識の理解、はいずれも 9 割以上が「できた・概ねできた」と回答した。実務保健師の災害時の役割遂行に対する自信の回答は「できた・概ねできた」は 7 割であった。受講 2 か月後の職場に戻ってからの行動化については、自組織のマニュアルや保健師の役割の確認、平時の業務において災害を意識した活動等が共通して確認できた。また職場等の環境の変化として、災害への備えについて職場の保健師への波及、課内の災害時の行動計画の見直し等が共通して確認できた。研修ガイドライン（案）の実用性について、人材育成担当者から聴取した意見として、研修目的の明確化、研修プログラムの系統的作成に役立つが、用語の理解や、コンピテンシーの研修企画への活用については工夫が必要との回答を得た。以上より、設置主体の異なるいずれの研修実施機関においても、研修ガイドライン（案）を活用した実務保健師の災害時対応研修において効果及び実用性を確認することができた。人材育成担当者から実用性において工夫が必要として得られた意見は、研修ガイドライン（案）の精錬において反映が必要な事項と考えられた。

（研究協力者）
霜越 多麻美（千葉大学大学院看護学研究科　特任研究員）

A．研究目的

本研究の目的は、本研究班で作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）」を現場適用し、その効果及び実用性を検証することである。

B．研究方法

大規模自然災害の発生想定地域において、実務保健師を対象とする災害対応研修を計画しており、実施にあたり本研修ガイドライン（案）を用いることに協力の得られた研修実施機関 4 か所、すなわち県本庁（事例 A）、保健所設置市本庁（事例 B）、県型保健所（事例 C）、職能団体（事例 D）を調査対象とした。

各研修実施機関において、以下の対象者から検証のための資料を収集した。

【人材育成担当者】実務保健師を対象とする災害対応研修の企画・実施・評価に主担当で携わる保健師。研修ガイドライン（案）を用いて、実務保健師を対象とする災害対応研修の企画・実施・評価を行い、それらの資料提供に同意する者。

【研修受講者】研修ガイドライン（案）を用いて企画した災害対応研修の受講保健師であり、研修受講直後、受講２カ月後のそれぞれの時点において、受講による学びの評価に関する質問紙への回答を研究班に提供することに同意の得られた者。

（２）ガイドライン（案）の現場適用

ガイドライン（案）に記載している、研修の企画の流れ（以下のステップ１～ステップ４）に沿って、研修実施機関の人材育成担当者が主となり、研究者が相談役を担い、研修企画シートを作成しながら計画を立案した。

ステップ１：研修ニーズのアセスメント
ステップ２：研究目標の設定
ステップ３：研修プログラムの構成及び方法の検討
ステップ４：研修の計画評価の立案

（３）検証資料の収集

（ア）研修ガイドライン（案）を用いた研修の効果の評価資料

研修受講の学びの効果を Kirkpatrick による 4 レベルの学びの評価視点 1)に基づき、①感想・満足度、②獲得した知識・技術・態度、③実践に戻り行動化した内容、④職場等の環境に変化を与えた内容の観点から把握する自記式質問紙を作成した。上記①②は研修受講直後、③④は受講 2 か月後の評価事項とし、研修受講直後の調査は、研修終了直後に、研修受講 2 か月後の調査は、研修時に 2 か月後の質問紙内容及び回収方法及び期日をあらかじめ提示しておき、回収した。

（イ）研修ガイドライン（案）を用いて研修企画を行う上での実用性の評価資料

人材育成担当者に対して、研修前、研修後の２時点において、研修ガイドライン（案）の内容及びその実用性について、半構造面接により意見を聴取した。

＜聴取事項＞

○研修前：研修ガイドライン（案）を提示し説明した後に以下を聴取した。従前の研修の企画・実施・評価と比較して、役立つと思われる点、良いと思われる点、改善が必要と思われる点、について。

○研修後：研修ガイドライン（案）を用いて、研修を実際に企画・実施・評価した経過を振り返ってもらい、また受講者から回収した質問紙調査（受講直後及び受講 2 か月後）の集計結果を見てもらった後に以下を聴取した。研修ガイドライン（案）について、従前の研修の企画・実施・評価と比較して、役立った点、良いと思った点、改善が必要と思った点、について。

（ウ）調査時期

令和元年 11 月～令和 2 年 3 月

（倫理的配慮）

人材育成担当者及び研修受講者のそれぞれに調査趣旨を紙面及び口頭で説明し、研究参加の同意の得られた者を調査対象とした。また各研修実施機関の長に文書にて調査協力の同意を得た。研究計画書は千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会にて承認を得、実施あたり内容を遵守した（承認番号：31-55）

C．研究結果

１．調査事例の概要（表１）

事例 A の人材育成担当者は、県本庁の保健師である。研修受講者は、県下の実務保健師（市町村及び保健所）86 人（市町村 67 人・保健所 19 人）であった。研修は、県本庁が県下の保健師を対象に定期的に実施している災害時対応研修の位置づけで企画した。

事例 B の人材育成担当者は、保健所設置市本庁の保健師である。研修受講者は、各区の保健センターにおいて、災害担当を分掌している実務保健師 38 人であった。市本庁が当市の保健師を対象に実施している災害対応研修及び保健師人材育成研修の位置づけで企画した。

事例 C の人材育成担当者は、県型保健

所における管理期の保健師である。研修受講者は、管内の市町村及び保健所・支所の保健師 24 人（市町村 15 人、保健所 9 人）であった。毎年実施している管内研修会の１回分の位置づけで企画した。

事例 D の人材育成担当者は、市町村保健師の研鑽と交流を目的に組織している団体において専門職員として勤務している保健師である。研修受講者は保健師 68 人であった（県保健師及び在宅保健師 計 20 名を含む）。毎年テーマを設定して実施している保健師研修会の位置づけで企画した。

２．研修の企画内容

各事例の企画内容を企画シートに示した（表２－１～表２－４）。

３．研修の効果

事例ごとに、研修において焦点をあてるコンピテンシーとして選定された内容、研修プログラム、学びの評価を示す（表３－１～表３－４）。

１）事例Ａ

①研修において焦点をあてるコンピテンシーとして選定された内容

焦点を当てるコンピテンシーとして、超急性期におけるⅠ-3 要配慮者の安否確認と避難への支援、Ⅰ-4 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化、急性期及び亜急性期におけるⅡ-1 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり、Ⅱ-2 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり、Ⅳ静穏期におけるⅣ-1 地域住民や関係者との協働による防災・減災の取組みが選定された。

②研修プログラム

「災害時保健活動において求められるスタッフ保健師の役割」をテーマに、県の災害時保健師活動マニュアルを踏まえた上で、コンピテンシーの内容を自分の役割として理解できることを到達目標とした。

対面型集合研修は LWR 型で実施し、演習は発災直後における避難所等での支援、被災地のアセスメントと受援ニーズについて、市町村保健師または保健所保健師として取るべき役割を自覚、判断・行動できること、リフレクションを通して平時から必要な準備を見出すことができることとした。

③学びの評価

研修直後の質問紙の回答から、災害時における受講の［満足度］は大変よかった・よかったは受講者の 97.6%であり、実務保健師の役割についての[自覚]、[知識]、[自己の問題点]、[自己の問題点を改善する方法の理解]、の各観点について、できる･概ねできる､の回答はそれぞれ、100%、92.8%、100%、92.9%であり 9 割以上あった。[自信]については、できる･概ねできるの回答は 61.9%であった。

研修受講 2 か月後の質問紙の回答から、実践に戻り行動化した内容として、マニュアル等の確認、所属部署における保健師の役割の確認､自身の備蓄品等の確認、対策の充実に向けた取組み、部署内での研修内容の共有、他機関との連携、住民への啓発、訓練への意識的参加、意識の変化等が確認できた。職場場等の環境の変化の内容として、体制の整備、保健師への波及、関係機関等との連携、住民への啓発、訓練の実施体制、意識の変化、が確認された。

２）事例Ｂ

①研修において焦点をあてるコンピテンシーとして選定された内容

焦点を当てるコンピテンシーとして、超急性期におけるⅠ-1 被災者への応急対応、Ⅰ-4 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化、Ⅰ-5 外部支援者の受入に向けた準備が選定された。

②研修プログラム

「受援を見据えた災害時の初動活動～発災後 72 時間における保健師の判断力・行動力を高めよう」をテーマに、災害初期に実務保健師が果たすべき役割を理解

し、日々の保健師活動の中で災害時の視点を持って活動できること、とくに受援を見据えた初動時の実務保健師の役割に焦点をあて、役割のイメージを形成し、災害時に判断及び行動ができるようになることを到達目標とした。さらに受講者が自身の学びを深めるとともにその内容を各職場へ伝達し、災害時の対応能力を各職場で高めていく取り組みに繋げることができることをねらいとした。

対面型集合研修は RLWR 型で実施し、演習は実務保健師としての 2 つの立場（現場リーダー的立場の保健師及び 6 年目の保健師）から、判断・行動を考えることから、組織的な思考や行動力を養うこととした。

③学びの評価

研修直後の質問紙の回答から、災害時における受講の［満足度］は大変よかった・よかったは受講者の 100%であり、実務保健師の役割についての[自覚]、[知識]、[自己の問題点]、[自己の問題点を改善する方法の理解]、の各観点について、できる・概ねできる、の回答はそれぞれ、100%、97.3%、100%、94.6%であり 9 割以上あった。[自信]については、できる・概ねできるの回答は 62,2%であった。

研修受講 2 か月後の質問紙の回答から、実践に戻り行動化した内容として、保健師間・課題での情報共有、マニュアル等の確認、受援を想定した備え、自身の備え、自己啓発、意識の変容、が確認できた。職場場等の環境に変化を与えた内容として、体制の整備、職場の保健師への波及、住民・関係者との共有、が確認された。

３）事例C

①研修において焦点をあてるコンピテンシーとして選定された内容

焦点を当てるコンピテンシーとして、超急性期におけるⅠ-1 被災者への応急対応、Ⅰ-4 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化、Ⅰ-5 外部支援者の受入に向けた準備、が選定された。

②研修プログラム

「受援を踏まえた災害時の初動活動 市町村と保健所との連携を視野に入れて組織的な対応力を高めよう」をテーマに、新人期保健師は、理解し、どうすべきかを考えられること、中堅期以上の保健師は行動できることを到達目標とした。

対面型集合研修は LWR 型で実施し、演習は、災害初期における、市町村保健師、保健所保健師としての役割・連携の理解、とくに受援を見据えた初動時の活動のイメージを踏まえた判断及び行動、さらに平時における災害時の視点を持った活動の力を養うこととした。

③学びの評価

研修直後の質問紙の回答から、災害時における受講の［満足度］は大変よかった・よかったは受講者の 93.8%であり、実務保健師の役割についての[自覚]、[知識]、[自己の問題点]、[自己の問題点を改善する方法の理解]、の各観点について、できる・概ねできる、の回答はそれぞれ、100%、91.3%、86.9%、91.3%であり 9 割以上あった。[自信]については、できる・概ねできるの回答は 69.5%であった。

研修受講 2 か月後の質問紙の回答から、実践に戻り行動化した内容として、訓練への参加、マニュアル等の確認、保健師や課の役割の確認、他機関との関係、住民・地域での関わり、自身の備え、意識の変容、が確認できた。職場場等の環境に変化を与えた内容として、体制の整備、職場の保健師への波及、マニュアル等の見直し、が確認された。

４）事例D

①研修において焦点をあてるコンピテンシーとして選定された内容

焦点を当てるコンピテンシーとして、超急性期におけるⅠ-1 被災者への応急対応、Ⅰ-2 救急医療の体制づくり、Ⅰ-3 要配慮者の安否確認と避難への支援、Ⅰ-4 被災地支援のアセスメントと受援ニーズ

の明確化、Ⅰ-5 外部支援者の受入に向けた準備、が選定された。

②研修プログラム

「突然の災害、その時あなたはどうしますか？発災後 72 時間における保健師の判断力・行動力を高めよう」をテーマに、思考・判断・行動化の習得、フェーズにおける行動のイメージ形成により、災害時の保健師活動に対する不安を軽減し、研修直後において職場で戻り取組みたいことを発言できること、研修会終了 2 か月以内において何らの行動に移せることを到達目標とした。

対面型集合研修は LWR 型で実施し、演習は、市町村保健師としてまたは市町村リーダー保健師，あるいは市町村を支援する保健所保健師として発災時の組織的な活動をイメージでき，保健師として必要な判断，行動ができること、リフレクションをとおして，保健師として平時から意識的に取り組む点を見出すことができること、とした。

③学びの評価

研修直後の質問紙の回答から、災害時における受講の［満足度］は大変よかった・よかったは受講者の 100%であり、実務保健師の役割についての[自覚]、[知識]、[自己の問題点]、[自己の問題点を改善する方法の理解]、の各観点について、できる･概ねできる､の回答はそれぞれ、98.4%、98.4%、86.9%、98.4%であり 9 割以上あった。[自信]については、できる･概ねできるの回答は 82.5%であった。

研修受講 2 か月後の質問紙の回答から、実践に戻り行動化した内容として、課内での共有、上司・統括保健師への働きかけ、業務内で発災を意識した行動、マニュアル等の確認、自己の役割の確認、必要物品等の確認、住民への関わり、他研修への参加､災害派遣時の実践への反映、自己研鑽、が確認できた。職場等の環境に変化を与えた内容として、マニュアルの作成、職場の保健師への波及、庁内の連携体制構築、が確認できた。

なお、受講者による学びの評価について、各事例の評価資料の集計結果を表４及び表５に示す。

５．研修ガイドライン（案）の実用性

研修実施機関の人材育成担当者から聴取した意見の内容を整理した。

１）従来の研修の企画と比べて良いと思われる点（表６－１）

ガイドラインの意義、研修の目的の明確化、研修プログラムの系統的な作成、研修評価の明示、コンピテンシーの活用の意義、リフレクションの活用の意義、効果、が良い点として示された。

２）改善を要する点（表６－２）

用語の明確化、コンピテンシーの活用方法の具体、ガイドの活用促進、工夫の点から、改善を要する点が示された。

D．考察

１．研修ガイドライン（案）用いた研修企画の特徴

事例 A~D の各事例において、人材育成担当者は、研修企画シートを用いて、各ステップに沿って、研修の企画を系統的に進めることができていた。事例 A~D は、県本庁、保健所設置市本庁、県型保健所、職能団体であり、設置主体が異なる。それゆえに、企画する研修の受講者の特性や、研修の位置づけも異なるが、それぞれが研修の目的を明確にしていた。またコンピテンシーリストの点検に加えて、受講者のキャリアラダーに関する先行資料、独自に実施した受講ニーズアンケート等を用いて、人材育成担当者は、研修において焦点をあてるコンピテンシーを選定し、研修目標及び研修テーマを定めることができていた。その後、研修のテーマを踏まえて、事前学習、対面集合型研修、研修後の方向づけ、の点から研修プログラムを具体的かつ一貫性をもって検討することができて

いた。

２．研修の効果

研修受講の学びの効果を Kirkpatrick による 4 レベルの学びの評価視点に基づき、①感想・満足度、②獲得した知識・技術・態度、③実践に戻り行動化した内容、④職場等の環境に変化を与えた内容の観点から評価した。その結果、全事例において、満足度は、大変よかった・良かったの回答が 9 割以上であった。獲得した知識・技術・態度について、災害時における実務保健師の役割の[自覚]、[知識]、[自己の問題点]、[自己の問題点を改善する方法の理解]の各観点においては、できる・概ねできる、の回答は 9 割以上あり、[自信]については約 6 割であった。これらの傾向は、全事例に共通していた。これらは研修直後の学びの評価であり、より多くの受講者が［自信］の修得に至るためには、研修後の学びへの方向づけが必要であることを示唆しており、研修ガイドライン（案）では、研修企画において、研修後の方向づけを研修プログラムに含めることとしており、そのことの重要性が確認できた。

研修受講２か月後の回答から、実践に戻り行動化した内容、職場等の環境の変化について多くの記載があり、それらの内容をみると、各事例において、研修目標に呼応した行動化や職場等の変化が示されたことが確認できた。

以上のことから、研修ガイドライン（案）は、研修目的の明確化、さらに設定した研修の目標に対して、実務保健師の災害時の役割遂行における、受講者の行動化及び職場等の環境の変化という点で学びを促していることが確認できた。

３．研修ガイドライン（案）の実用性

４事例における人材育成担当者から、研修ガイドライン（案）を用いることの有用性として、研修の目的の明確化、研修プログラムの系統的な作成、研修評価の明示、コンピテンシー及びリフレクションの活用の意義、効果、が示された。一方、改善を要する点として、用語の明確化、コンピテンシーの活用方法の具体、ガイドの活用促進、が示された。改善を要する点については、研修ガイドライン（案）を精錬するための検討事項としていく必要がある。

E．結論

本研究班で作成した「実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）」を研修実施機関 4 か所（県本庁、保健所設置市本庁、県型保健所、職能団体）に適用し、実務保健師を対象とした災害時対応研修を企画・実施・評価し、その効果及び実用性を検証した。

受講者は合計 216 人で、内訳は県本庁企画研修 86 人、保健所設置市本庁企画研修 38 人、県型保健所企画研修 24 人、職能団体企画研修 68 人あった。効果の評価のため回収した質問紙は、受講直後は合計 208 人（受講者の 96.3%）、受講 2 か月後は合計 136 人（同 63.0%）であり、受講直後の満足度、実務保健師の災害時の役割遂行に対する自覚、知識、自己の問題点、自己の問題点を改善するための知識の理解、はいずれも 9 割以上が「できた・概ねできた」と回答した。実務保健師の災害時の役割遂行に対する自信の回答は「できた・概ねできた」は 7 割であった。受講 2 か月後の職場に戻ってからの行動化については、自組織のマニュアルや保健師の役割の確認、平時の業務において災害を意識した活動等が共通して確認できた。

また職場等の環境の変化として、災害への備えについて職場の保健師への波及、課内の災害時の行動計画の見直し等が共通して確認できた。研修ガイドライン（案）の実用性について、人材育成担当者から聴取した意見として、研修目的の明確化、研修プログラムの系統的作成に役立つが、用語の理解や、コンピテンシーの研修企画への活用については工夫が必要との回

答を得た。

以上より、設置主体の異なるいずれの研修実施機関においても、研修ガイドライン（案）を活用した実務保健師の災害時対応研修において効果及び実用性を確認することができた。人材育成担当者から実用性において工夫が必要として得られた意見は、研修ガイドライン（案）の精錬において反映が必要な事項と考えられた。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

＜引用文献＞

1)James D. Kirkpatrick & Wendy Kayser Kirkpatrick：Kirkpatrick's Four Levels of Training Evaluation. Amer Society for Training ,2016.

表１　調査事例の概要（研修受講者及び評価票回収状況）

事例		研修受講者			受講直後の評価票回収				受講2か月後の評価票回収			
		実務保健師	統括・管理期保健師等	計	実務保健師	統括・管理期保健師等	計	回収率	実務保健師	統括・管理期保健師等	計	回収率
県本庁	A	86	0	86	84	0	84	97.7	53	0	53	61.6
		100,0	0	100,0	100,0	0	100,0		100,0	0	100,0	
保健所設置市	B	34	4	38	33	4	37	97.4	21	0	21	55.3
		89.5	10.5	100.0	89.2	10.8	100.0		100.0	0.0	100.0	
県型保健所	C	16	8	24	16	7	23	95.8	16	8	24	66.7
		66.7	33.3	100.0	69.6	30.4	100.0		66.7	66.7	66.7	
職能団体	D	54	14	68	50	14	64	94.1	35	3	38	51.5
		79.4	20.6	100.0	78.1	21.9	100.0		92.1	7.9	100.0	
計		190	26	216	183	25	208	96.3	125	11	136	63.0
		51.9	7.1	59.0	52.9	7.2	60.1		51.7	4.5	56.2	

表２　研修企画の内容
表２－１　研修企画の内容―事例Ａ（県庁）

企画の流れ		内容
ステップ1. 研修のニーズアセスメント（研修課題の明確化）	①実務保健師の現状や問題点 ②受講者の背景 ③受講者のコンピテンシー及び知識･技術･態度の現状並びに受講者のニーズ	①　災害時の保健活動経験のある者は限られており、組織内での共有状況も不明。令和元年度の他県派遣を経験したスタッフ保健師から避難所での活動方法が分からず不安であったという声あり。 ②　新任期保健師等保健指導研修（A-2）及び公衆衛生看護指導者研修は（A-3）は全員が受講済み。災害時保健活動研修は３年に１度の開催であり全員が受講できているわけではない。 ③　キャリアラダーにおいて健康危機管理に関する能力が他分野に比べて低い傾向あり。県の災害時保健活動マニュアルにおけるスタッフ保健師の役割の記載は「住民の健康管理、情報収集、リーダー保健師への報告･相談、所内ミーティングへの参加、巡回健康相談等必要物品の点検である。派遣経験から受援体制、アセスメント、要配慮者支援の充実が必要。
ステップ2. 研修の目標の設定	①焦点をあてるコンピテンシー及び知識･技術･態度の内容	超急性期：Ⅰ-3 要配慮者の安否確認と避難への支援における(7)(8)(9)、Ⅰ-4 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化における(10)(11)(12)、Ⅰ-5 外部支援者の受入に向けた準備における(13)(14) 急性期及び亜急性期：Ⅱ-1 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくりにおける(15)(16)、Ⅱ-2 避難所の衛生管理及び安心･安全な生活環境の体制づくりにおける(19)（20） Ⅳ静穏期：Ⅳ-1 地域住民や関係者との協働による防災･減災の取組みにおける(61)(62)
	②研修により期待するコンピテンシーの到達度	県の災害時保健師活動マニュアルを踏まえた上で、コンピテンシーの内容を自分の役割として理解できる。また平時からの関係機関や住民と共に健康危機に備えた活動を意識できる。
	④　研修の位置づけ･ねらい	市町村及び保健所のスタッフ保健師を対象とした専門研修における災害時保健活動研修。県の災害時保健活動マニュアルにおけるスタッフ保健師の役割の理解、平時からの行動の意識化を図ることをねらいとした。
ステップ3. 研修プログラムの構成及び　方法の検討	①　事前学習	各所属の地域防災計画における指揮命令系統及び情報の流れの確認、県の災害時保健師活動マニュアルにおけるスタッフ保健師の役割の確認、所属自治体における災害時要配慮者への支援体制の確認
	②集合型対面学習	テーマ：災害時保健活動において求められるスタッフ保健師の役割 【プログラム構成】LWR型　【時間】5 時間 挨拶･資料確認（10 分）、報告（令和元年度保健師派遣）（10 分）、講義(90 分)、コンピテンシーリストを用いた自己評価（15 分）、演習事例説明（15 分）、演習1及び 2（ワーク･発表･コメント･リフレクション）（各 65 分）、グループリフレクション（15 分）、全体まとめ（15 分）、評価票記入（10 分） 【演習】シミュレーション事例を用いたグループワーク （目的）発災直後における避難所等での支援、被災地のアセスメントと受援ニーズについて、市町村保健師または保健所保健師として取るべき役割を自覚し、判断･行動できる。またリフレクションを通して平時から必要な準備を見出すことができる。 【グループ編成】市町村と保健所を分けて編成。 【事例】県内の1自治体の地域防災計画に基づき災害想定事例を作成。
	③　事後の方向づけ	研修での学びを通し自身の課題に気付き、今後意識して取り組むことへの方向づけ。研修 1 か月後に予定している情報伝達訓練への積極的な参加の促し。研修 2 か月後のアンケートから状況を把握することの周知による意識づけ。
ステップ4. 研修の評価計画の立案	①　コンピテンシーの到達度	焦点をあてたコンピテンシーについて理解度を把握。
	②研修の評価計画の立案	受講直後のアンケートから満足度、目的の達成度、要望･感想の把握、2 か月後のアンケートから研修後の状況（行動･態度、周囲の人々や組織に及ぼした影響）を把握

表２－２　研修企画の内容－事例Ｂ（保健所設置市）

企画の流れ		内容
ステップ1. 研修のニーズアセスメント(研修課題の明確化)	①実務保健師の現状や問題点 ②受講者の背景 ③受講者のコンピテンシー及び知識･技術･態度の現状並びに受講者のニーズ	①　災害時の保健師の役割の理解、保健センター内での連携、他の部署との連携状況も区によって差があると感じている。 ②　受講者は各区の災害担当保健師。若手が多く、担当は1～2年で変わる。災害時の要配慮者台帳の管理、区での研修の企画など担っている。災害派遣の経験がある保健師は一部に限られている。 ③　これまでの災害研修では急性期の保健師の役割や静穏時の備えについて取り上げたことが多かった。受援の視点での研修実績がなく、どの程度のコンピテンシーが備わっているか不明。6年目研修者での自己評価では、災害を含んだ健康危機管理に関する項目に対して、自信がないと答えたものが多かった。 コンピテンシーリストのチェックを受講者全員に実施してもらったところ、受援関係の項目ができないとする回答割合が高く、地域防災計画の理解や自身の災害への備えなどの部分はできるとする回答割合が高い傾向があった。
ステップ2. 研修の目標の設定	①焦点をあてるコンピテンシー及び知識･技術･態度の内容	超急性期:コンピテンシー(4)必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する、の1)2)3)4)、(10)避難所巡回、関係者及び災害対策本部からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする、及び(11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする、の3)～6)、(13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する、及び(14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う、の1)2)3)4)
	②研修により期待するコンピテンシーの到達度	災害初期に実務保健師が果たすべき役割を理解し、日々の保健師活動の中で災害時の視点を持って活動できる。とくに受援を見据えた初動時の実務保健師の役割に焦点をあて、役割のイメージを形成し、災害時に判断及び行動ができるようになる。
	③研修の位置づけ･ねらい	市本庁が企画する災害時保健師研修であると共に保健師キャリアラダーにおける人材育成の位置づけで行う。研修を受講したものが自身の学びを深めるとともにその内容を各職場へ伝達し、災害時の対応能力を各職場で高めていく取り組みに繋げることができることをねらいとする。
ステップ3. 研修プログラムの構成及び　方法の検討	①　事前学習	コンピテンシーリストの記入･提出、区の防災マニュアル、避難所運営マニュアルにおける保健班の役割の確認
	②集合型対面学習	テーマ:受援を見据えた災害時の初動活動～発災後72時間における保健師の判断力･行動力を高めよう～ 【プログラム構成】RLWR型、【時間】3.5時間 13:30～13:40　主催者挨拶･研修趣旨説明 13:40～13:55　[R]リフレクション(事前学習をしてみて印象に残った部分･気になったこと等について情報交換) 13:55～14:55　[L]「講話 15:05～16:25　[W]グループワーク1及び2　ワーク、発表･コメント 16:25～16:45　[R]リフレクション 16:45～17:00　質疑･総括 【演習】シミュレーション事例を用いたグループワーク (目的)2つの立場(現場リーダー的立場の保健師(統括的立場あるいは管理期の保健師ではない)及び6年目の保健師)で判断･行動を考えることで組織的な思考や行動力を養う。【グループ編成】各区混成 【事例】地域防災計画の想定を参考に作成。
	③事後の方向づけ	リフレクション、研修直後のアンケートにより、各自の今後の行動化の目標を明らかにする。2 か月後アンケートの趣旨説明により本日の研修内容の各職場での実践の動機付けとする。
ステップ4. 研修の評価計画の立案	① コンピテンシーの到達度	研修直後と2か月後にアンケートを実施。記載内容から評価する。
	②研修の評価計画の立案	2か月後アンケートの記載内容より評価する。

表２－３　研修企画の内容－事例Ｃ（県型保健所）

企画の流れ		内容
ステップ1. 研修のニーズアセスメント（研修課題の明確化）	①実務保健師の現状や問題点 ②受講者の背景 ③受講者のコンピテンシー及び知識・技術・態度の現状並びに受講者のニーズ	①　保健所・支所及び市町村の統括保健師は今後５年間でほぼ退職。人材確保及び育成が課題である。災害時には国道寸断、山間部崩落が予測され、保健所から市町村への支援困難が想定される。保健所の上位職が参集できない場合、新人期保健師が市町村との調整を担う必要がある。 ②　毎年管内保健師研修会で災害研修を実施。市町村救護所立ち上げ(H26～28年度)、・初動（H28年度保健所、R元年度市町村）訓練等を実施。 ③　研修前アンケートより：新人５名の内４名は災害支援経験がないが、他保健師18名は自市町村及び管内市町村での支援経験あり。H23年度の水害では1市２町が県内保健師の受援を経験。当時主となった統括保健師は4名中２名が退職。保健所は二次的健康被害予防及び受援体制に関心が高く、市町村は被災者への応急対応に関心が高い。
ステップ2. 研修の目標の設定	①焦点をあてるコンピテンシー及び知識・技術・態度の内容	超急性期のコンピテンシー： I－１被災者への応急対応における（1）の2）、（2）の6）、（3）の1）3）4）5）、（4）の1）2）3）4）、Ⅰ-4被災地支援のアセスメントと受援ニーズにおける（10）（11）の3）4）5）6）、Ⅰ-5外部支援者の受け入れ準備における(13）の1）2）3）4）
	②研修により期待するコンピテンシーの到達度	新人期保健師：理解し、どうすべきかを考える。中堅期以上の保健師：行動できる。
	④　研修の位置づけ・ねらい	保健所（支所）主催による管内市町村保健師研修会の位置づけ。保健所と市町村の保健師が災害発生時に互いの役割を理解し、共通認識のもと活動できることとする。
ステップ3. 研修プログラムの構成及び　方法の検討	①　事前学習	所属市町村の防災計画における被災者の健康支援（救護所立上げを含む）、避難所運営マニュアル及び県災害時保健師活動マニュアルの確認
	②集合型対面学習	テーマ：「受援を踏まえた災害時の初動活動　市町村と保健所との連携を視野に入れて　組織的な対応力を高めよう」 【プログラム構成】　LWR型　【時間】3時間 導入15分、講義（L）50分、ワーク（W）65分（事例説明、演習）、発表・助言　30分、リフレクション（R）　15分、アンケート記入　5分※ワークは、保健所・市町村の混合グループ（4～6人）とする。リフレクションのStep3は、職場の同僚に一番伝えたい事、自身が取り組めそうなことを考えるよう強調する。 【演習シミュレーション事例を用いたグループワーク （目的）1．災害初期における、市町村保健師、保健所保健師として果たすべき役割、連携について理解する、2．とくに受援を見据えた初動時の活動のイメージをもち、判断及び行動ができるようになる、3．平時の活動の中で災害時の視点を持って活動できる。【グループ編成】市町村と保健所の混成。 【事例】管内の1自治体の地域防災計画の被害想定を基に、地震による津波災害事例を作成
	③事後の方向づけ	リフレクションで考えたことに取り組む。
ステップ4. 研修の評価計画の立案	①　コンピテンシーの到達度	理解・意識化：事前アンケートで保健所・市町村別に関心の高かった項目について、アンケートで評価する。行動化：2か月後のアンケートで評価する。
	②研修の評価の計画の立案	受講者の反応・満足度　：　表情、ワーク時や感想に関する発言 習得した知識・技術・態度　：　直後のアンケート 実践に戻り行動化した内容等　：　2　か月後のアンケート及びリフレクションで考えたことに取り組めたか評価する

表２－４　研修企画の内容－事例Ｄ（職能団体）

企画の流れ		内容
ステップ1. 研修のニーズアセスメント(研修課題の明確化)	①実務保健師の現状や問題点 ②受講者の背景 ③受講者のコンピテンシー及び知識･技術･態度の現状並びに受講者のニーズ	①直近の大きな自然災害は平成23年の東日本大震災であるが、それ以外にも近年では平成29年7月の大雨により17市町、平成30年5月の大雨で2市に浸水、土砂崩れが発生し、死者は出ていないものの、住民生活や健康に大きな影響を与えた。被災市町及び地区が限定的であったこともあり、災害時の保健活動を経験したことがある保健師は多くないと推測。被災地への応援派遣は、県の保健師が主であり、市町村保健師で応援派遣に行ったことがある保健師は少ない。また、県のマニュアルは作成されているが、市町村共通のマニュアルは無い。 ②③研修会に参加希望の保健師を対象に事前調査を実施。災害時保健活動の経験あり38%程度、災害研修参加経験43%程度。発災時の判断力と行動力の修得、ロールプレイやシミュレーション等のワーク、経験年数が近い人同士の情報交換･連携体制の構築、被災地派遣経験のある保健師からの話を聞きたい等の要望あり。管理職からは、実務保健師等の状況を知り、今後どのような研修や連絡会議等が必要か考えることが出来ることを期待するとの意見があった。
ステップ2. 研修の目標の設定	①焦点をあてるコンピテンシー及び知識･技術･態度の内容	超急性期のコンピテンシー：Ⅰ-1被災者への応急対応(1)の1)2)4)5)における保健福祉的視点からのﾄﾘｱｰｼﾞ等アセスメント、(3)の2)4)二次的健康被害の予防、(4)の1)4)応援の判断と統括保健師への報告、Ⅰ-2救急医療の体制づくり(6)の3)統括保健師の補佐、Ⅰ-3要配慮者の支援(9)の1)優先度、Ⅰ-4被災地支援のアセスメントと受援ニーズ(10)の3)迅速評価、Ⅰ-5外部支援者の受け入れ準備(13)の1)外部支援者の理解
	②研修により期待するコンピテンシーの到達度	**思考・判断・行動化の習得、フェーズにおける行動のイメージ形成により、災害時の保健師活動に対する不安を軽減し、研修直後において職場で**戻り取組みたいことを発言できること、研修会終了2か月以内において何らの行動に移せることを目標とする。
	③研修の位置づけ･ねらい	県内の市町村保健師で組織する職能団体主催による人材育成研修
ステップ3. 研修プログラムの構成及び方法の検討	①　事前学習	所属自治体の防災計画における保健師部門の位置づけの確認及び自分の課題の意識化を図る。
	②集合型対面学習	テーマ：「突然の災害、その時あなたはどうしますか？発災後72時間における保健師の判断力･行動力を高めよう」 【プログラム構成】LWR型　【時間】4時間 10:05～10:25 県からの情報提供、県の災害時保健活動マニュアルの説明 10:25～11:55 講師による講義 13:00～14:30 演習1及び演習2、講師からのコメント、ﾘﾌﾚｸｼｮﾝ 14:30～15:00　全体まとめ：事後の方向づけのﾘﾌﾚｸｼｮﾝ(グループ内で意見交換)、質疑･講評、評価の質問紙の記入 【演習】シミュレーション事例を用いたグループワーク (目的)市町村保健師としてまたは市町村ﾘｰﾀﾞｰ保健師，あるいは市町村を支援する保健所保健師として発災時の組織的な活動をイメージでき，保健師として必要な判断，行動ができる。ﾘﾌﾚｸｼｮﾝをとおして，保健師として平時から意識的に取り組む点を見出すことができる。 【グループ編成】新任期と中堅期を混成。市町村ﾘｰﾀﾞｰ保健師と保健所保健師を混成。 【事例】水害の事例：県内での過去の発災事例を参考に作成
	③事後の方向づけ	新任期･中堅グループ、県職員･管理期保健師グループのそれぞれから、発表してもらい、受講者全体の中で共有することにより、得た気づきを相対化させて自身の中に進化させる。
ステップ4. 研修の評価計画の立案	①　コンピテンシーの到達度	研修会当日、受講直後の評価の質問紙により、理解度や意識化、行動化の到達度を評価する。
	②研修の評価計画の立案	発行予定の会報誌発送時に、受講2か月後の評価の質問紙により、何らかの行動に移せたか、自分や周囲の人々に影響を及ぼしたことがあるか等を評価する。

表３　研修において焦点をあてるコンピテンシー、研修プログラム構成、学びの評価の関連

表３－１　事例Ａ

研修において焦点をあてるコンピテンシー			研修プログラム構成	学びの評価 ＜研修受講直後＞＜受講２か月後＞
【Ⅰ 超急性期（フェーズ０～1）発災直後～72 時間】			＜期待する到達度＞ 県の災害時保健師活動マニュアルを踏まえた上で、コンピテンシーの内容を自分の役割として理解できる。 ＜研修プログラム構成＞ テーマ：災害時保健活動において求められるスタッフ保健師の役割 事前学習：自組織の指揮命令系統・情報の流れ、県のマニュアルにおけるスタッフ保健師の役割（住民の健康管理、情報収集、リーダー保健師への報告・相談、所内ミーティングへの参加、巡回健康相談等必要物品の点検）、自組織の災害時要配慮者への支援体制の確認 集合型対面研修 ＬＷＲ型：他県への災害時派遣活動の報告、講義、コンピテンシーリストを用いた自己評価、演習、リフレクション 演習目的：発災直後における避難所等での支援、被災地のアセスメントと受援ニーズについて、市町村保健師または	＜研修受講直後＞ ①感想・満足度 大変よかった 50.0%、よかった 47.6% ②獲得した知識・技術・態度 [自覚]できた 70.2%、概ねできた 29.8%、あまりできなかった 0%、できなかった 0% [自信] できた 8.3%、概ねできた 53.6%、あまりできなかった 34.5%、できなかった 3.6% [知識] できた 32.1%、概ねできた 60.7%、あまりできなかった 6.0%、できなかった 0% [自己の問題点] できた 36.9%、概ねできた 63.1%、あまりできなかった 0%、できなかった 0% [自己の問題点の改善方法の理解] できた 27.4%、概ねできた 65.5%、あまりできなかった 6.0%、できなかった 1.2% ＜受講２か月後＞ ③実践に戻り行動化した内容 [市町村保健師] ○マニュアル等の確認：県の災害時保健師活動マニュアル、所属自治体のマニュアルの記載内容の確認、研修受講後に実施した保健師災害初動時情報伝達訓練における自治体の体制や情報伝達方法等の確確を行った、等 ○所属部署における保健師の役割の確認：災害時の保健師の具体的な役割について課内で話し合いを行い確認した、等 ○自身の備蓄品や職場までの移動手段やルートの確認 ○災害時の対策の充実に向けた取り組み：アクションカード、地区情報シート、マニュアルの整備を行った、等。 ○所属部署内での研修内容の共有
Ⅰ-3. 要配慮者の安否確認と避難への支援				
活動場所：保健活動拠点及び地域包括支援センター等				
コンピテンシー		(7)平時から把握している要配慮者のうち早急に安否確認の必要な対象者を判断する。		
		(8)安否確認の体制づくりを行う。		
		(9)安否確認のもれ、不明者の確認に対する持続的な管理を行う。		
	知識･技術･態度の内容	1)安否確認の必要な要配慮者の優先度に関する判断		
		2)要配慮者の避難行動及び避難先での生活に必要な支援対応に関するアセスメント		
		3)連携が必要な関係者の特定と要配慮者への持続的な支援及び管理の体制づくり		
Ⅰ-4. 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化（迅速評価）				
活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先				
コンピテンシー		(10)避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。		
		(11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。		
		(12)既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。		
	知識･技術･態度の内容	1)避難所等巡回による情報収集の体制づくり		
		2)関係者や災害対策本部から入手した情報の活用		
		3)被災地域の迅速評価		
		4)数量データによる、健康課題の根拠の提示		

		5)優先度の高い課題と対象のリストアップ	保健所保健師として取るべき役割を自覚、判断・行動できる。リフレクションを通して平時から必要な準備を見出すことができる。 グループ編成：市町村と保健所を分けて編成。	○他機関との連携等：防災担当課や関係機関（社会福祉協議会、医療機関等）、管轄保健所との話し合いの場をもった、等。 ○住民への啓発：家庭訪問や健診等の平時の業務において住民と災害時対応について話し合った、部署内で災害時の要配慮者対応に必要な啓発を検討した、等。 ○保健師災害初動時情報伝達訓練への意識的な参加：研修後にあった保健師災害初動時情報伝達訓練において研修での学びを意識して行動した、等。 ○平時における意識の変化：他の研修受講等の自己研鑽や、日常の中で災害を想定した思考や行動等が高まる、等。 ○今後、業務の中で取り組みたいこと：今後必要な取組みの洗い出し、保健師間ミーティングの必要性、要配慮者の困りごとの把握等への意向等が導出された。 [保健所（県型）] ○所内体制や保健師の役割の確認：県の災害時保健師活動マニュアル、情報収集手段の活用方法の確認、保健師の役割について改めて考え、医療救護活動マニュアルの見直しの修正案に意見を出した、等。 ○所属部署内での研修内容の共有：分散配置先の保健師とも共有する働きかけを行った、等。 ○保健師災害初動時情報伝達訓練への意識的な参加：研修後に計画されていた伝達訓練において指揮命令系統、役割分担、情報収集、応援の必要性の判断等について考えながら参加した、等。 ○平時における意識の変化：家庭訪問で外出の際に、主要道路や避難所を意識的に見るようにした、市保健師とる会議で顔を合わせた時に、災害時の対応について情報交換するようになった、等。 ○自身の備蓄品や職場への移動手段の確認 ④職場等の環境に変化を与えた内容 [市町村] ○体制の整備：課内で検討会を実施し、指揮命令系統を決めることができた、課内での役割分担について見直
Ⅰ-5. 外部支援者の受入に向けた準備				
活動場所：保健活動拠点				
コンピテンシー		(13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する。		
		(14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。		
	知識･技術･態度の内容	1)外部支援者の種別･職務の理解		
		2)被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解		
		3)外部支援者が効果的に活動できるための体制･調整の理解		
		4)保健所による、都道府県･外部支援者･被災市町村のリエゾンの理解		
【Ⅱ 急性期及び亜急性期（フェーズ 2～3）中長期】				
Ⅱ-1. 被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり				
活動場所：避難所等被災者の避難先				
コンピテンシー		(15)被災者・避難者の心身の健康状態をアセスメントし、セルフケアのために必要な情報や仕組みを判断する。		
		(16)二次的健康障害を未然に予防するための対策を講じる。		
		(17)関連死のリスク兆候を早期に把握し必要な個別対応と予防対策を講じる。		
		(18)住民による主体的な健康管理及び避難所運営管理者等と連携した健康管理の体制づくりを行う。		
	知識･技術･態度の内容	1)個人･家族による健康管理のセルフケアの体制づくり		
		2)成長発達段階、ジェンダーに考慮した支援		
		3)亜急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識		
		4)グリーフケアに関する知識		

		5)廃用性症候群の理解と防止策の実施	すことができた、等。 ○職場の保健師への波及： 復命を見た災害担当保健師が、要援護者について新たな把握方法を模索し始めた、等。 ○関係機関等との連携：会議等を通じて、関係機関と互いの役割の理解、継続した話し合いの合意等があり連携促進につながった、等。 ○住民への啓発：平時の業務において災害時の健康対策について話をした、等。 ○「保健師災害初動時情報伝達訓練」の実施体制：従来、担当者任せとなっていたところ、今回の訓練では課内で情報共有して役割分担して協力して取り組めた、等。 [保健所] ○体制の整備：医療救護活動マニュアルの修正案について検討する機会を設けたことで、保健師それぞれが自身の役割について考える機会となった、等。 ○「保健師災害初動時情報伝達訓練」の具体的な実施：研修での学びから、被災時には保健所保健師が直接管内市町に情報を取りに行くことがあること等をメンバーに伝え、その場合の行動について考えた、勤務時間外の発災の場合、初動時に参集できる職員の人数が少ないことが共有された、等。 ○平時における意識の変化：自分が災害について注意・確認することで家族や同僚等の周囲も災害について意識を向けるようになった、等。
		6)関連死のリスク兆候の理解と対応	
		7)避難所の運営管理者との連携	
		8)長期化する避難生活において想定されるヘルスニーズと連携すべき専門職や専門チームに関する理解	
Ⅱ-2. 避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり			
活動場所：避難所等被災者の避難先			
コンピテンシー		**(19)環境衛生の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。**	
		(20)安心・安全の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。	
	知識･技術･態度の内容	1)避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント	
		2)発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識	
		3)感染症予防･食中毒予防に関する技術	
		4)災害時における啓発普及の技術	
【Ⅳ 静穏期（平常時の備えの時期）】			
Ⅳ-1. 地域住民や関係者との協働による防災・減災の取り組み			
活動場所：地域活動			
対応能力 (コンピテンシー)		(58)災害を想定した場合の地域の健康問題及び支援対応の脆弱性や強みに関するアセスメントを行う。	
		(59)アセスメント結果に基づき、住民や関係者との協働による防災・減災に対する取組計画を策定する。	
		(60)平時の保健福祉事業の場に、災害対応について住民と共に考える機会を織り込む。	
		(61)平常時のかかわりを通じて、災害時の健康支援への協力者となりうる地域住民や地元の関係者と保健師との信頼関係を構築する。	
	知識･技術･態度の内容	1)災害を想定した場合の地域の脆弱性や強みに関する地域診断	

		2)保健福祉事業の場の活用による、災害対応について住民と共に考える機会の企画･実施･評価		
		3)住民や地元の関係者との信頼関係の構築及び有事における連携協働のイメージの構築		
活動場所：地域活動				
対応能力 (コンピテンシー)		**(62)要配慮者の災害時の避難行動や避難所での生活を想定した場合の地域の脆弱性や強みをアセスメントする。**		
		(63)災害時における共助について住民や関係者と共に考える場を企画する。		
	知識･技術･態度の内容	1)災害時対応を想定した場合の要配慮者に対する地域の脆弱性や強みに関する地域診断		
		2)災害時の共助について住民及び関係者と共に考える場の企画･実施･評価		

表３－２ 事例Ｂ

研修において焦点をあてるコンピテンシー	研修プログラム構成	学びの評価 ＜研修受講直後＞＜受講２か月後＞
【Ⅰ 超急性期（フェーズ 0～1）発災直後～72 時間】 **Ⅰ-1. 被災者への応急対応** **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先 **コンピテンシー**：(4)必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する。 **知識･技術･態度の内容**：1)応援の必要性の判断 2)指示命令系統の理解 3)統括保健師と実務保健師の役割分担の理解 4)応援者の種別･特性や要請の仕組みの理解 **Ⅰ-4. 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化（迅速評価）** **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先 **コンピテンシー**：(10)避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。 (11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。 (12)既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。 **知識･技術･態度の内容**：1)避難所等巡回による情報収集の体制づくり 2)関係者や災害対策本部から入手した情報の活用 3)被災地域の迅速評価 4)数量データによる、健康課題の根拠の提示 5)優先度の高い課題と対象のリストアップ 6)受援の必要性と内容に関する判断 **Ⅰ-5. 外部支援者の受入に向けた準備** **活動場所：**保健活動拠点 **コンピテンシー**：(13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容	**＜期待する到達度＞** **災害初期に実務保健師が果たすべき役割を理解し、日々の保健師活動の中で災害時の視点を持って活動できる。とくに受援を見据えた初動時の実務保健師の役割に焦点をあて、役割のイメージを形成し、災害時に判断及び行動ができるようになる。** **＜研修プログラム構成＞** **テーマ：受援を見据えた災害時の初動活動～発災後 72 時間における保健師の判断力・行動力を高めよう～** **事前学習：コンピテンシーリストの記入・提出、区の防災マニュアル、避難所運営マニュアルにおける保健班の役割の確認** **集合型対面研修** **ＲLWR型：リフレクション、講義、演習、リフレクション** **演習目的： ２つの立場（現場リーダー的立場の保健師及び 6 年目の保健師）で判断・行動を考えることで組織的な思考や行動力を養う。**	**＜研修受講直後＞** **①感想・満足度** **大変よかった** 51.5%、**よかった** 48.5% **②獲得した知識・技術・態度** **[自覚]できた** 51.4%、**概ねできた** 48.6%、**あまりできなかった** 0%、**できなかった** 0% **[自信] できた** 5.4%、**概ねできた** 56.8%、**あまりできなかった** 37.8%、**できなかった** 3.6% **[知識] できた** 18.9%、**概ねできた** 78.4%、**あまりできなかった** 2.7%、**できなかった** 0% **[自己の問題点] できた** 29.7%、**概ねできた** 70.3%、**あまりできなかった** 0%、**できなかった** 0% **[自己の問題点の改善方法の理解] できた** 21.6%、**概ねできた** 73.0%、**あまりできなかった** 5.4%、**できなかった** 0% **＜受講２か月後＞** **③実践に戻り行動化した内容** ○保健師間、課内での情報共有や話し合いおよび勉強会の実施：所内の保健師へ報告会･勉強会等を通じ講習内容を伝え共有した、本研修で実施したグループワークをアレンジして所内で実施した、等。 ○マニュアル･防災計画の確認および様式の作成や修正：市の災害時活動マニュアルを精読した、所内災害関係の各種名簿等を更新した、等。 ○受援を想定した備え：受援に応じた記録用紙の統一や準備、持ち出しファイルの準備、名札を作成した、管理職と受援の際の施設面の確認をした、等。 ○他機関との関係づくり：避難所の指定管理者について区の防災担当者へ確認し、区の防災担当者と顔の見える関係づくりを意識した、等。 ○住民および地域との関り：要援護者の訪問時に災害時の視点をもって聞き取りや保健指導を行った、担当地区の概況も災害時の支援を意識して作成する必要があると感じた、等。

		を計画し、統括保健師に報告する。	**グループ編成：各区混成**	○自身の備え：携帯電話や電動自転車などの充電を半分以下とならないように保つことを心掛けた。 ○自己啓発：災害時サイコロジカル・ファースト・エイドの研修（PFA 研修）を受講予定である。 ○意識の変容：今後、所内の研修報告を通してスタッフに伝え、行動していきたい、等。。 **④職場等の環境に変化を与えた内容** ○体制の整備：所属の保健センター保健師間で研修内容の勉強会、グループワークを行ったことにより、今後の対策や備えを具体的に決めた、災害担当保健師として区版の要援護台帳マニュアルを作成し保健師内で確認し読み合わせたことにより、各保健師が担当学区に責任を持ち、訪問・電話等で情報収集し台帳を整理することができた、難病担当保健師と協力し「医療依存度の高い在宅難病患者に対する災害対策について」勉強会を実施したことにより、各機関ができる災害支援、医療機器について学ぶことができた、等。 ○住民および地域、関係者への影響：要援護者のマッピングなどをしてすぐ動ける仕組みを作っていく必要があると共有できた、等。 ○自身の備え：職員自身が食料を職場にストックしておくなど備えを意識するようになった。 ○職場の保健師への波及：保健師内で災害に対する意識が一層高まり、協力体制、積極的な参加や意見など機運が変化した、災害時要援護者台帳の整理を図り、学区担当保健師にも台帳に挙げている対象について見直してもらったことにより、今後も年 1 回以上、訪問・面接を通して把握する必要性を感じてもらえた、等。
		(14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。		
	知識・技術・態度の内容	1)外部支援者の種別・職務の理解		
		2)被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解		
		3)外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解		
		4)保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解		

表３－３ 事例Ｃ

研修において焦点をあてるコンピテンシー	研修プログラム構成	学びの評価 ＜研修受講直後＞＜受講２か月後＞
【Ⅰ 超急性期（フェーズ 0～1）発災直後～72 時間】 **Ⅰ-1. 被災者への応急対応** **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先（保健福祉事業実施中の対応も含む） **コンピテンシー** **(1)被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療やケアが必要な人、配慮の必要な人を特定し、緊急搬送、福祉避難所への移送、別室等での対応を行う。また緊急ではない要医療者の手当て、要配慮者への継続的な見守りを行う。** **(2)保健福祉事業実施中の場合は、事業参加者の安全を確保し住民の不安が最小限となるよう統括保健師と連携の下、住民に情報提供を行う。** **知識･技術･態度の内容** 1)心身のアセスメント 2)保健福祉的視点からのトリアージ 3)応急手当の実施 4)要配慮者の判断基準 5)災害時の倫理的な判断と行動 6)保健福祉事業中の災害発生に対する住民の安全確保と対応方法の理解 7)自身の安全確保と組織活動を意識した行動の実施 **活動場所：**避難所、その他被災者の避難先 **コンピテンシー** **(3)避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防する。** **知識･技術･態度の内容** 1)災害時の二次的健康被害の理解 2)避難先での被災者の健康状態の把握 3)避難環境のアセスメント 4)感染症予防対策の実施 5)急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する理解 **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先 **コンピテンシー** **(4)必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する。**	＜期待する到達度＞ **新人期保健師：理解し、どうすべきかを考える。中堅期以上の保健師：行動できる。** ＜研修プログラム構成＞ **テーマ： 受援を踏まえた災害時の初動活動 市町村と保健所との連携を視野に入れて 組織的な対応力を高めよう** **事前学習：所属市町村の地域防災**計画における被災者の健康支援（救護所立上げを含む）、避難所運営マニュアル及び県災害時保健師活動マニュアルの確認 **集合型対面研修** **ＬＷＲ型：講義、演習、リフレクション** **演習目的：**1. 災害初期における、市町村保健師、保健所保健師として果たすべき役割、連携について理解する、2. とくに受援を見据えた初動時の活動のイメージをもち、判断及び行動ができるようになる、3. 平時の活動の中で災害時の視点を持って活動できる。 **グループ編成：市町村と保健所の混成。**	＜研修受講直後＞ **①感想・満足度** **大変よかった** 75.0%、**よかった** 18.8% **②獲得した知識・技術・態度** **[自覚]できた** 47.8%、**概ねできた** 52.2%、**あまりできなかった** 0%、**できなかった** 0% **[自信] できた** 4.3%、**概ねできた** 65.2%、**あまりできなかった** 21.7%、**できなかった** 8.7% **[知識] できた** 13.0%、**概ねできた** 78.3%、**あまりできなかった** 8.7%、**できなかった** 0% **[自己の問題点] できた** 21.7%、**概ねできた** 65.2%、**あまりできなかった** 13.0%、**できなかった** 0% **[自己の問題点の改善方法の理解] できた** 13.0%、**概ねできた** 78.3%、**あまりできなかった** 8.7%、**できなかった** 0% ＜受講２か月後＞ **③実践に戻り行動化した内容** ○災害対策初動対応訓練への参加：より積極的に取り組んだ、研修であったようにアクションカードに基づいて実際に行動しながら確認を行った、等。 ○マニュアル･防災計画の確認および様式の作成や修正：マニュアルや様式等を見直したり新たに作成したりした、等。 ○保健師や課の役割の確認：災害発生時に必要となる事項、自分の課の災害時の役割を確認した。 ○他機関との関係：各機関等との連携を意識し平常業務から情報共有を欠かさないようにした。 ○住民および地域での関り：医療的ケア児等に家庭訪問する際、災害時に備えた準備状況の把握に努めた、家庭訪問等で地域に出るときに、避難所の場所がどこか気にするようになった。 ○自身の備え：着替えを一組、インスタントラーメンやチョコレートを職場においておくことにした。 ○意識の変容：町保健師の携帯番号も把握しておこうと思っ

	知識･技術･態度の内容	1)応援の必要性の判断 2)指示命令系統の理解 3)統括保健師と実務保健師の役割分担の理解 4)応援者の種別･特性や要請の仕組みの理解		た、防災に関して関心が出てきた、等。 **③職場等の環境に変化を与えた内容** **〇職場の保健師への波及：マニュアル作成を保健センター内で共有することで、皆が災害対応について意識するようになった、初動対応訓練により職場全体で意識の向上につながった、防災のことやりたいよね、と周囲の人と話すようになった。** **〇マニュアル・防災計画の確認および様式の作成や修正：課内で災害行動計画の見直しを行った。**
Ⅰ-4. 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化（迅速評価）				
活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先				
コンピテンシー		**(10)避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。** **(11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。** **(12)既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。**		
	知識･技術･態度の内容	1)避難所等巡回による情報収集の体制づくり 2)関係者や災害対策本部から入手した情報の活用		
Ⅰ-5. 外部支援者の受入に向けた準備				
活動場所：保健活動拠点				
コンピテンシー		**(13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する。** **(14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。**		
	知識･技術･態度の内容	1)外部支援者の種別･職務の理解 2)被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解 3)外部支援者が効果的に活動できるための体制･調整の理解 4)保健所による、都道府県･外部支援者･被災市町村のリエゾンの理解		

表３－４ 事例Ｄ

研修において焦点をあてるコンピテンシー	研修プログラム構成	学びの評価 ＜研修受講直後＞＜受講２か月後＞
【Ⅰ 超急性期（フェーズ 0～1）発災直後～72 時間】 **Ⅰ-1. 被災者への応急対応** **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先（保健福祉事業実施中の対応も含む） **コンピテンシー** (1)被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療やケアが必要な人、配慮の必要な人を特定し、緊急搬送、福祉避難所への移送、別室等での対応を行う。また緊急ではない要医療者の手当て、要配慮者への継続的な見守りを行う。 (2)保健福祉事業実施中の場合は、事業参加者の安全を確保し住民の不安が最小限となるよう統括保健師と連携の下、住民に情報提供を行う。 **知識・技術・態度の内容** 1)心身のアセスメント 2)保健福祉的視点からのトリアージ 3)応急手当の実施 4)要配慮者の判断基準 5)災害時の倫理的な判断と行動 6)保健福祉事業中の災害発生に対する住民の安全確保と対応方法の理解 7)自身の安全確保と組織活動を意識した行動の実施 **活動場所：**避難所、その他被災者の避難先 **コンピテンシー** (3)避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防する。 **知識・技術・態度の内容** 1)災害時の二次的健康被害の理解 2)避難先での被災者の健康状態の把握 3)避難環境のアセスメント 4)感染症予防対策の実施 5)急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する理解	＜期待する到達度＞ **思考・判断・行動化の習得、フェーズにおける行動のイメージ形成により、災害時の保健師活動に対する不安を軽減し、研修直後において職場で戻り取組みたいことを発言できること、研修会終了 2 か月以内において何らの行動に移せることを目標とする。** ＜研修プログラム構成＞ **テーマ：**突然の災害、その時あなたはどうしますか？発災後 72 時間における保健師の判断力･行動力を高めよう **事前学習：**所属自治体の防災計画における保健師部門の位置づけの確認及び自分の課題の意識化を図る。 **集合型対面研修** **ＬＷＲ型：県庁統括者より県のマニュアルの紹介、講義、演習、リフレクション** **演習目的：市町村保健師としてまたは市町村リーダー保健師，あるいは市町村を支援する保健所保健師として発災時の組織的な活動をイメージでき，保健師として必要な判断，行動ができる。リフレク**	＜研修受講直後＞ **①感想・満足度** **大変よかった** 76.0%、**よかった** 24.0% **② 獲得した知識・技術・態度** **[自覚]できた** 69.8%、**概ねできた** 28.6%、**あまりできなかった** 1.6%、**できなかった** 0% **[自信] できた** 11.1%、**概ねできた** 71.4%、**あまりできなかった** 17.5%、**できなかった** 0% **[知識] できた** 34.9%、**概ねできた** 63.5%、**あまりできなかった** 1.6%、**できなかった** 0% **[自己の問題点] できた** 47.6%、**概ねできた** 50.8%、**あまりできなかった** 1.6%、**できなかった** 0% **[自己の問題点の改善方法の理解] できた** 36.5%、**概ねできた** 61.9%、**あまりできなかった** 1.6%、**できなかった** 0% ＜受講２か月後＞ **③実践に戻り行動化した内容** **○課内での共有や復命：研修会復命時に、研修内容のまとめを作成・添付し、課内に回覧した、同僚と改めて災害時の保健師活動の重要性について話をした、研修を受講した後、職場内で研修内容について振り返りや話し合う時間を持った。** **○上司・統括保健師への働きかけ：本研修会での学びや本市町村に不足している事項について、統括保健師へ報告した、復命だけでなく、口頭で研修会の内容を保健師、上司と共有した、統括保健師と体制等について意見交換した。** **○普段の業務内で発災を意識した行動：家庭訪問や健康相談、健康教育で地区に向かう際の地区踏査（避難所や家屋等）を 0 心掛けた、後期高齢者の冬期間の閉じこもり予防のため、訪問活動をしているところである、歩いて訪問することにより、土地柄や土地環境を前よりも気をつけて見て歩くようになった、担当地域外の分も、人工呼吸器等を使用している住民情報を意**

活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先		
コンピテンシー		(4)必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する。
	知識･技術･態度の内容	1)応援の必要性の判断
		2)指示命令系統の理解
		3)統括保健師と実務保健師の役割分担の理解
		4)応援者の種別･特性や要請の仕組みの理解
Ⅰ-2. 救急医療の体制づくり		
活動場所：保健活動拠点		
コンピテンシー		(5)診療可能な病院、医療の確保を必要とする被災者に関する情報収集を行う。
		(6)医療を必要とする被災者への医療提供体制づくりについて統括保健師を補佐し協働する。
	知識・技術・態度の内容	1)地域医療の稼働や緊急受入に関する情報収集
		2)医療依存度の高い被災者に関する情報収集
		3)統括保健師を補佐する役割の理解
		4)地域防災計画における医療救護体制の理解

Ⅰ-3. 要配慮者の安否確認と避難への支援		
活動場所：保健活動拠点及び地域包括支援センター等		
コンピテンシー		(7)平時から把握している要配慮者のうち早急に安否確認の必要な対象者を判断する。
		(8)安否確認の体制づくりを行う。
		(9)安否確認のもれ、不明者の確認に対する持続的な管理を行う。
	知識･技術･態度の内容	1)安否確認の必要な要配慮者の優先度に関する判断
		2)要配慮者の避難行動及び避難先での生活に必要な支援対応に関するアセスメント
		3)連携が必要な関係者の特定と要配慮者への持続的な支援及び管理の体制づくり

ションをとおして，保健師として平時から意識的に取り組む点を見出すことができる。

グループ編成：新任期と中堅期を混成。市町村リーダー保健師と保健所保健師を混成。

識するようになった、施設の鍵や施設内管理は誰がしているのか、誰に連絡する必要があるのか考えるようになった、等。
○地域防災計画・災害時マニュアル、自分の役割りの確認：所属自治体の災害時の組織体制、連絡体制を確認した、発災を想定して、日頃の準備や役割について職場の保健師と話し合った、地域防災計画に目を通し、地震等緊急時の職員対応マニュアルを再度確認し、自分の役割について確認した。また、避難行動要支援者名簿について、これまで存在すら知らなかったが、自分の所属する自治体は、どこの課でそれを作成しているのかを受講後に確認した、等。
○必要物品等の確認：緊急時の必要物品を再確認した、要支援者がどの地域に何名程度いるのか等、名簿の確認をした、等。
○住民への関わり：住民と接する機会などでも、頭の片隅に災害を置いて対応するようになった、等。
○他主催の研修会への参加：管轄保健所が実施した災害時保健活動研修会に参加した、等。
○災害派遣時の実践への反映：受援側の準備や依頼整理の大変さを研修で学んでいたため、被災地行政の進捗（県とのミーティング・今後の予定・検討内容）に意識するようにした、等。
○自己研鑽：個人的に他自治体で既に作成されている保健師の災害時マニュアル等を調べた、災害時循環器疾患の予防・管理に関するガイドラインの存在を知り読んで知識を深めた。

③ 職場等の環境に変化を与えた内容
○マニュアルの作成：所属自治体では災害時保健活動マニュアルを作成していないため県のマニュアルを入手し課内で共有した、市町村保健師活動マニュアルを作成するため資料の収集を始め作成に取りかかった。
○職場の保健師への波及：研修内容を見た職員から、「平時から準備が必要だね」等声をかけられ意識づけになった、年度末に計画している保健師全体会において研修会の復命を行うとともに、想定事例について保

Ⅰ-4. 被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化（迅速評価）				健師全体で取り組めるように計画をした、等。 ○庁内の連携体制：今回の研修会を踏まえて職階別のグループワークを行うことを提案し市長や福祉事務所の担当課にも参加してもらう計画である。
活動場所：救護所、避難所、その他被災者の避難先				
コンピテンシー		(10)避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。		
		(11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。		
		(12)既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。		
	知識･技術･態度の内容	1)避難所等巡回による情報収集の体制づくり		
		2)関係者や災害対策本部から入手した情報の活用		
		3)被災地域の迅速評価		
		4)数量データによる、健康課題の根拠の提示		
		5)優先度の高い課題と対象のリストアップ		
		6)受援の必要性と内容に関する判断		
Ⅰ-5. 外部支援者の受入に向けた準備				
活動場所：保健活動拠点				
コンピテンシー		(13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する。		
		(14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。		
	知識･技術･態度の内容	1)外部支援者の種別･職務の理解		
		2)被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解		
		3)外部支援者が効果的に活動できるための体制･調整の理解		
		4)保健所による、都道府県･外部支援者･被災市町村のリエゾンの理解		

表４受講直後の満足度
表４－１　受講直後の満足度―実務保健師

上段 実数、下段 %

事例		大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	回答なし	計
県本庁	A	42	40	0	0	2	84
		50.0	47.6	0.0	0.0	2.4	100.0
保健所設置市	B	17	16	0	0	0	33
		51.5	48.5	0.0	0.0	0.0	100.0
県型保健所	C	12	3	0	0	1	16
		75.0	18.8	0.0	0.0	6.3	100.0
職能団体	D	38	12	0	0		50
		76.0	24.0	0.0	0.0	0.0	100.0
計		109	71	0	0	3	183
		59.6	38.8	0.0	0.0	1.6	100.0

表４-2　受講直後の満足度―統括・管理期保健師等

上段 実数、下段 %

事例		大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	回答なし	計
県本庁	A	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0
保健所設置市	B	2	2	0	0	0	4
		50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
県型保健所	C	6	1	0	0	0	7
		85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0
職能団体	D	12	2	0	0	0	14
		85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0
計		20	5	0	0	0	25
		80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0

表５　受講直後の学びの評価の回答

1) 研修参加を通して、災害時における　実務保健師としての役割遂行に対して、自覚を高めることができましたか？

上段 実数、下段 %

事例		できた	おおむねできた	あまりできなかった	できなかった	不明	計
県本庁	A	59	25	0	0	0	84
		70.2	29.8	0.0	0.0	0.0	100.0
保健所設置市	B	19	18	0	0	0	37
		51.4	48.6	0.0	0.0	0.0	100.0
県型保健所	C	11	12	0	0	0	23
		47.8	52.2	0.0	0.0	0.0	100.0
職能団体	D	44	18	1	0	1	64
		69.8	28.6	1.6	0.0	1.6	101.6
計		133	73	1	0	1	208
		64.3	35.3	0.5	0.0	0.5	100.5

2）研修参加を通して、災害時における実務保健師としての役割遂行に対して、自信を得ることができましたか？

上段 実数、下段 %

事例		できた	おおむねできた	あまりできなかった	できなかった	不明	計
県本庁	A	7	45	29	3	0	84
		8.3	53.6	34.5	3.6	0.0	100.0
保健所設置市	B	2	21	14	0	0	37
		5.4	56.8	37.8	0.0	0.0	100.0
県型保健所	C	1	15	5	2	0	23
		4.3	65.2	21.7	8.7	0.0	100.0
職能団体	D	7	45	11	0	1	64
		11.1	71.4	17.5	0.0	1.6	101.6
計		17	126	59	5	1	208
		8.2	60.9	28.5	2.4	0.5	100.5

3）研修参加を通して、災害時に実務保健師として求められる知識・技術・態度について知識を得ることができましたか？

上段 実数、下段 %

事例		できた	おおむねできた	あまりできなかった	できなかった	不明	計
県本庁	A	27	51	5	0	1	84
		32.1	60.7	6.0	0.0	1.2	100.0
保健所設置市	B	7	29	1	0	0	37
		18.9	78.4	2.7	0.0	0.0	100.0
県型保健所	C	3	18	2	0	0	23
		13.0	78.3	8.7	0.0	0.0	100.0
職能団体	D	22	40	1	0	1	64
		34.9	63.5	1.6	0.0	1.6	101.6
計		59	138	9	0	2	208
		28.5	66.7	4.3	0.0	1.0	100.5

4）研修参加を通して、実務保健師としての役割遂行に対して、自身の問題点を明確にすることができましたか？

上段 実数、下段 %

事例		できた	おおむねできた	あまりできなかった	できなかった	不明	計
県本庁	A	31	53	0	0	0	84
		36.9	63.1	0.0	0.0	0.0	100.0
保健所設置市	B	11	26	0	0	0	37
		29.7	70.3	0.0	0.0	0.0	100.0
県型保健所	C	5	15	3	0	0	23
		21.7	65.2	13.0	0.0	0.0	100.0
職能団体	D	30	32	1	0	1	64
		47.6	50.8	1.6	0.0	1.6	101.6
計		77	126	4	0	1	208
		37.2	60.9	1.9	0.0	0.5	100.5

5）上記の問題点の改善を図るために必要な知識・技術・態度について学ぶことができましたか？

上段 実数、下段 %

事例		できた	おおむねできた	あまりできなかった	できなかった	不明	計
県本庁	A	23	55	5	1	0	84
		27.4	65.5	6.0	1.2	0.0	100.0
保健所設置市	B	8	27	2	0	0	37
		21.6	73.0	5.4	0.0	0.0	100.0
県型保健所	C	3	18	2	0	0	23
		13.0	78.3	8.7	0.0	0.0	100.0
職能団体	D	23	39	1	0	1	64
		36.5	61.9	1.6	0.0	1.6	101.6
計		57	139	10	1	1	208
		27.5	67.1	4.8	0.5	0.5	100.5

表６　研修ガイドライン（案）の実用性

表６－１　従来の研修の企画と比べて良いと思われる点

分類	内容
ガイドラインの意義	・　根拠に基づいた研修会を企画できるということは、企画者として安心感があり自信につながる。 ・　企画するうえで、市町の現状について企画者として調べて企画するというプロセスを踏むことができた。 ・　これまで研修は何気なく受講することが多かったが、今回ガイドライン（案）のようなツールに則って企画するということを初めて体験し、自分の学びもいつも以上に深められたと感じる。評価を実施するというところまで一連の流れとしてできることが良かった。 ・　ガイドラインとして研修の必要性や内容が示されていると、事務職上司とも保健師の研修の必要性や意義について理解してもらう根拠として使用できる。
研修目的の明確化	・　「何を学ぶために研修会を開催するのか」というのは、結局のところ学習後にそれが理解できたかどうかを評価するためにも必要なことではないかと考えるので、目的を明確にすることは必要なこと、大事なことであると感じた。 ・　企画シートを作成することで、受講者の背景や要望をしっかりとアセスメントし、これによって研修の目的が明確になった。目的をもって計画しなければならないということを改めて感じた。 ・　実際に自分達の思いを形にしていくためには、企画や目的といったものがきちんと見えているようなところを具体化して進めていき、終わったところでどういう結果だったかという評価をするために明確に形として残して、継続していくということも大事なので、目的を明確化して良かったと感じている。 ・　実際にやってみて終わりではなく、一連の流れとしては、それを明確化したことで新しい発見があったり、反省点もあったりということが見えやすく、今後継続していくということにつながったと思う。 ・　目的が明確化されていることで、参加者によって思うところが違うというよりは、一つの目的に沿って学ぶことができ研修の内容がぶれないと感じた。 ・　研修に参加しなかった人達への引継がしやすく、またその後の自分たちの活動・やらなければならないことにつなげやすくなるのではないかと感じた。 ・　ガイドラインに沿って行うことで目的を明確にしやすいと感じた。 ・　受講者や課題の事前アセスメントによって、研修企画者の思いを確かにしていくことが大事である。 ・　研修はその後の取り組みにつないでいく契機となることが大事である。
研修プログラムの系統的な作成	・　プログラムが作成されていることで、流れに沿って考えやすい。また今回はグループワークもあり、その中で意見交換を行ったことでさらに次につながり、そして２カ月後の質問紙があることでまた考えるきっかけになった。 ・　研修のねらいや、参加者の状況に合わせてより効果的なプログラムにするには、ということが記載されており大事だということを再確認した。研修プログラムの構成方法、内容の組み立て方が参考になった。 ・　プログラムの基本構成（例）があり、研修の目標に合わせ、組み立てることができる。 ・　実際に具体的な災害時の事例を材料にグループワークをするというのは今までになかったことで、いろいろな市町村で実際の体験も含めて話を聞くことができ、新しい発想で考えたり行動したりするきっかけになった。 ・　今回は事前学習があり、当日に講義を聴いてさらにその後のグループワークでそれを実践するところまで学ぶことができ、深い学びを得ることができた。 ・　グループワーク及びリフレクションの具体的な進め方が記載されており、どこに焦点をあてると効果的であるかを整理することができる。
研修評価の明示	・　研修直後と２カ月後にそれぞれ実施するということで、継続的に学習内容として残っていくのかを検証するうえでは必要であると感じた。 ・　研修の評価をどうしていくかがこれまで弱かったので、役立つ。 ・　研修のビジョンがクリアにできる。 ・　評価が確実に実施されるため、企画者へのフィードバックによって今後の取り組みの参考にできる点が良い。 ・　当日の評価だけでなく研修会後の評価を実施することを計画できたことは良い
コンピテンシー活用の意義	・　コンピテンシーが明示され、求められる必要な知識・技術が明確に示されている点は良い。 ・　コンピテンシーが記載されているため、研修の際にどこに焦点を当てるか考える際の参考になる。 ・　項目数は多いが読むことで確認でき、企画の準備段階となる。

	・ コンピテンシーのチェックリストは積極的に使うように記載した方がよい。81項目は多いが、読んでいくと、大事な項目である。 ・ コンピテンシーの使い方はいろいろに工夫できそうである。フェーズを絞って、チェックをしてもらって、研修項目を明確にしたり、受援に関連する項目に絞ってコンピテンシーをチェックしたりするという方法もある。
リフレクション活用の意義	・ 他の研修でもリフレクションを近年重視している。 ・ 直後だけでなく２カ月後ということで実践の場に戻ってから研修の成果を計ることができ、何事も振り返り、リフレクションが大事と言われているが研修の企画においても同様で、振り返りによって改善点を見出していくということが大事である。 ・ 研修会で終わるのではなく、時間をおいて２カ月後に研修後どうであったかということを改めて考え直し、実際に自分たちの業務の中でこれから何をしたら良いのかということを振り返ることができたのも良かった。
効果について	・ 組織と自分の役割の自覚が高まった ・ 研修で学んだことがその場限りでなく継続して評価する点が良かった ・ と感じた。研修に参加する側としては、事前のアンケートへの回答によって自分の今の状況がわかり、何を学びたいかをはっきりさせることができたところで、自分なりの目的を持って研修に参加できる。そうすることで研修の内容も頭に入ってきやすく、さらに２カ月後のアンケートに回答することで、２カ月経っての確認、自分で何かできることはあるかどうかを意識して行動につなげることもできたため、参加者の立場としても良かった。 ・ 研修参加後に、職場に戻って、災害対応の活動を企画したり他の保健師の能力開発につなげたりできると良く、その意識や行動につながったことが評価アンケートから確認できた。 ・ 研修会での経験が、その後の継続的な管内での保健師の取り組みにつながっていることが確認できた。

表６－２　改善を要する点

分類	内容
用語の明確化	・ コンピテンシー、リフレクション、態度という用語の解説があると良い。
コンピテンシーの活用方法の具体	・ コンピテンシーの研修企画への活用方法が具体的な道筋として示されると良い。 ・ 項目の中には、実務者自身が能力をつけることが可能なものと、実務者が能力を付けるために組織的な体制整備が必要なものがある。後者については、統括者や管理者にそのことを気付いてもらえるように、実務者のコンピテンシーリストが活用できると良い。 ・ フェーズを絞って、チェックをしてもらって、研修項目を明確にしたり、受援に関連する項目に絞ってコンピテンシーをチェックしたりするという方法もある。
ガイドの活用促進	・ 職場単位で企画する研修においても役立つことが記載されると良い。 ・ 保健所管内で企画する研修においては、その特徴や考慮する部分を加筆できると良い。 ・ 保健師の災害時研修を上司や庁内関係者にもその必要性を理解してもらう根拠としても活用できることが明示されると良い。 ・ 実務保健師の研修であるが、統括・管理職の保健師が参加する場合の役割など記載されていると良い。 ・ 庁内における災害研修、管内での災害時研修など、行政内や地域における災害研修において、当ガイドが扱う範囲を示す。
工夫	・ 研修企画事例の掲載について（企画シートの書き方の例示、事例について） ・ 人材育成担当者が一人で活用できるような工夫 ・ 受講２か月後の評価の質問紙は自由記載でなく項目化してあると記載しやすい。